

## 産学連携イノベーションの空間特性に関する研究

小柳, 真二

<https://hdl.handle.net/2324/7363568>

---

出版情報 : Kyushu University, 2024, 博士 (経済学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	小柳 真二			
論文名	産学連携イノベーションの空間特性に関する研究			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	與倉 豊
	副査	九州大学	教授	篠崎 彰彦
	副査	九州大学	准教授	堀井 伸浩

## 論文審査の結果の要旨

産学連携は2000年前後から国策的に推進されてきたことをうけ、研究蓄積が進展しつつある。しかしながら、日本の産学連携において地域内外の主体同士がどのようなネットワークを形成しているか、産学連携実績が増加している近年の状況との関係について十分には明らかになっていない。本論文は、企業や大学などの主体とそれらの連携によって形成されるイノベーション・ネットワークに焦点を当て、その動態と空間的特性を国際比較も交えながら明らかにしたものである。

本論文は6つの章から構成されている。1章では近年の産学連携の進展状況を概観したうえで、企業の研究開発機能が関東へ集中する一方、大学は相対的に地方圏にも分散しているという地域特性を指摘し、全国的に産学連携イノベーションの空間特性を明らかにする必要性を説いている。2章では産学連携の先行研究を整理し、企業からみた連携相手となる大学の立地分析が不足している点を課題としてあげている。

3章、4章、5章が本論文の中心となる実証的研究の成果である。3章では日本国内の特許データベースを用いて、特許共同出願の発明者間リンケージの空間特性を分析している。大企業と大学がともに集積する関東ではローカルなリンケージが卓越する一方で、地方圏においては連携相手となりうる大企業の研究開発機能が弱いことからローカルな連携が形成されにくいことを明らかにしている。4章では世界的な特許データベースを用いて、特許出願数の多い先進資本主義国(日・米・独・仏・韓)の産学連携の空間特性を分析し、3章の日本の産学連携ネットワークの分析結果を国際的な観点から相対化して捉えなおしている。国家間の統治構造(中央集権型・分散型)と都市システムの類似性を反映し、日・仏・韓では首都地域にイノベーション・ネットワークが集中する一方で、米・独では周辺地域においても企業や大学の立地が進み、大学発ベンチャー企業がローカルなイノベーション・ネットワークの中心的役割を果たすことで産学連携が相対的に分散傾向を示すとしている。5章は日本の大学発ベンチャー企業を取り上げ、その立地行動を母体機関との連携実態と技術分野に着目して分析している。母体機関との関係が強い企業は、近接性を重視して地方圏においても立地し続ける一方で、母体機関との関係が弱い企業は近接性を重視せず、資金調達や営業活動の利便性を求め大都市に移転を行う傾向があることを明らかにしている。6章ではこれまでの章の成果をまとめ、産学連携のネットワークの様態と、国・地域の競争力との関係解明を今後の研究課題としてあげている。本論文は産学連携に地理的観点を導入し、多様な主体間の空間的関係性を地図化することによってイノベーション・ネットワークの地域差を可視化しており、産学連携の新たな研究成果として高く評価することができる。

以上により、本論文調査会は、小柳真二氏より提出された論文「産学連携イノベーションの空間特性に関する研究」を博士(経済学)の学位を授与するに値するものと認める。